

## ～「家庭内暴力に悩む高齢者」～

- 仮名：Cさん
- 年齢：71歳
- 性別：女性

### 【20年の葛藤】

子どもの自立を願わない親はいないだろう。関西在住のCさん（73才）は、20年以上ひきこもり続けている長女（49才）と長男（48才）のエスカレートする家庭内暴力についてご相談に来ました。Cさんは現在、長女と長男、介護が必要な夫（76才）の4人で暮らしている。夫は8年前まで貿易業を営んでおり、経営は順調だった。しかし、8年前に夫が脳梗塞で倒れてから、幸い一命は取り留めたものの半身に麻痺が残った。それ以来、Cさんは夫の在宅介護を一人で行う日々を送っていた。長女は25才の時に結婚し、4年後に離婚。慣れない田舎での生活と夫の親族との間で、心身ともに参ってしまったことが離婚の原因だった。離婚した娘は実家に戻り、昼夜逆転した生活を10年以上送っていた。一時はアルコールと睡眠薬を大量に服用し、自殺を図って意識不明となり救急搬送されたこともあった。一方の長男は大学卒業後、まともに就職活動もしたことがなく、実家に住みついたまま、小遣い稼ぎ程度のバイトで社会との関わりを繋いでいた。

### 【親子とは何か】

長女の状態を見ていると、Cさんは長女に対して無理に「働け」とは言えなかった。

その間に、長女はどんどん家にひきこもるようになり、社会との関わりも断つようになっていった。昼間は寝ているのか部屋から一歩も出ず、家族が寝静まった頃を見計らって大声で外に向かって叫んだり、冷蔵庫の中身を外に放り投げたりといった奇行も起こしていた。一方の長男は夫が倒れてからというもの、バイトも辞め、長女と共に実家にひきこもるようになった。Cさんはこれまで、「今度こそ働くチャンスが欲しい」という息子のために、手に職をつけるための学費を援助したり、通学に必要なと言われれば車を買って与えるなど、親として出来得る精一杯の愛情を注いできた。しかし、夫の介護と看護が必要になった今、気づけば自分も70代に突入。「私だって、いつ倒れてもおかしくない」…行く先を考えると、「このままでいいのか?」「私のしてきたことが間違っていたんじゃないか?」という漠然とした不安に襲われることが多くなり、駆け込み寺に相談に訪れた。

### 【今後について】

二人の子どもが家に居続ける限り、財産をめぐる喧嘩が絶えない。さらに自分がこの家にいる以上、子ども達を追い出すのは難しい。働けるのに働かない子どもたちを見ているうちに、財産の全てを食いつぶされて飲み込まれていく恐怖を感じたという。「もしも夫が亡くなり自分も死んだら、この子たちの将来はどうなるのだろうか…」と考えたのだ。私はCさんに、二人の子どもを自立させる方法をいくつか教えた。その後、Cさんは夫を施設に預けることにした。それに加えて家の売却も視野に入れたうえで、一人暮らしをするためにアパートを借りる手続きをした。まずはCさんが変わることで、親子の問題も解決へ向けて前進した。



玄秀盛が発案した出所者居酒屋「新宿駆け込み餃子」の住所は新宿区歌舞伎町1-12-2 第58東京ビル 1,2F です。応援をよろしくお願いいたします。